

バス車両の調達状況

1 大会関係者輸送バス

(1) 旅行会社とバス事業者の仮契約締結

2019年4月中旬より、旅行会社3社（KNT-CT、JTB、東武トップツアーズ）が関東、中部、近畿、北陸、信越エリアの約930社のバス事業者と交渉し、仮契約の締結を進めています。

(2) 仮契約台数と乗務員数

12月18日時点での仮契約台数と乗務員数は、以下のとおり。

仮契約済み バス台数 約2,190台、乗務員数 約2,620人

必要なバス台数（約2,000台）の確保については目途が立ちましたが、大会関係者の輸送は早朝から深夜に及ぶものもあり、関係法令に基づいて運行していくためには、バス台数以上の乗務員数が必要になります。

引き続き、ステークホルダーのニーズを踏まえ、必要数の精査を行うとともに、首都圏のバス事業者への再交渉を行い、乗務員の確保を進めています。

(3) 今後のスケジュール

2019年12月以降 本契約を順次締結（2020年2月末まで）

乗務員の不足数確保（2020年2月末まで）

(4) リフト付きバスの調達

2019年4月中旬より、旅行会社3社が東北、関東、中部、北陸、近畿、中国、九州エリアのバス事業者と交渉し、現在までに約230台のリフト付き観光バスを確保しています。（組織委員会調べで、貸切バス事業者のリフト付き観光バスの保有台数は、約300台）

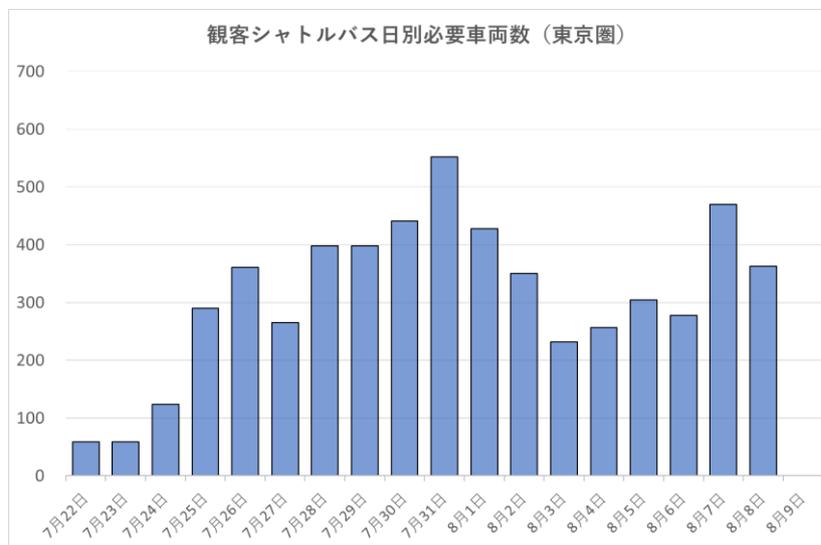
リフト付き車両の必要数については精査中であり、各競技団体の要望等を踏まえると、多くの車両が必要になると見込まれますが、効率的な運用により必要車両数を削減する検討を進めています。

合わせて、調達範囲の拡大によるリフト付き観光バスの更なる確保や、路線バスタイプの車両の活用などの検討を進めていきます。

2 観客シャトルバス

(1) 観客シャトルバス必要台数

東京圏の観客シャトルバスの必要台数のピークは、7月31日で約550台と想定
(下図参照：2019年9月末時点)



※ 観客シャトルバスの運行時間内では大会スタッフの移動も考慮している。

(2) 車両調達及び契約

○ 旅行会社を通じてバス調達をする会場

東京圏で観客シャトルバスを運行する8会場のうち4会場※1については、組織委員会が旅行会社と業務委託契約を締結し、旅行会社がバス会社からバスを調達します。

※1 埼玉スタジアム2002、霞ヶ関カントリー倶楽部、陸上自衛隊朝霞訓練場、釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ

○ 地元バス事業者の既存バス路線等を活用する会場

観客シャトルバスを運行する8会場のうち4会場※2は、地元バス事業者が既存バス路線による増便対応などを行います。

※2 海の森水上競技場、海の森クロスカントリーコース、東京スタジアム、馬事公苑

旅行会社を通じてバス調達をする会場のうち、霞ヶ関カントリー倶楽部、陸上自衛隊朝霞訓練場については、旅行会社と契約を締結し、車両調達を開始しています。それ以外の会場についても、上記に続き、年内に旅行会社と契約締結を予定しています。

既存バス路線を活用する会場については、地元バス事業者との大会への協力に関する文書の取り交わしを実施しました。